



# デイジー

通級指導教室便り  
2023.12.22  
裾野市立西中学校

## 思考停止に気付くことが 第一歩

「だって、みんなやってるもの。」「そういうものだと思っていた。」こんな言い訳をしたことはありませんか？正しいかどうかを自分で判断しないで（または間違っていると分かっているのに人のせいにして）、無理な言い訳をするのは、子どもだけではなく、大人も（最近では、国会議員までもが）使っています。「みんな」という言葉を出すのは、大勢の人がやっているのなら許されるという心理からくるそうです。もちろんこれは間違った未熟な価値観なのですが、どうやら若者より年配の日本人に多いようです。思考停止ですよ。

確かに、学校などで集団生活をしていると、周りの人に合わせた行動が求められることがあります。日課表に合わせた学校生活や団体競技、合唱練習等、周りと同じことを美徳とされる場面は多々あります。ですから、気を付けないと、知らないうちに間違った価値観ができてしまいやすいとも言えます。

これからの社会を生きる子どもたちに育成したい力として、近年、「**エージェンシー**（主体性、当事者意識等と訳される概念）」という言葉に注目が集まっています。西中でも、グランドデザインに「**主体性**」という言葉掲げており、よりよい変化を起こすために、生徒が自分で気付き、考え、的確に判断する力を付けることを重要視しています。教科の学びとは、目先の得点のためだけでなく、本来、世の中や自分の生活をよりよく変えていく力になるものです。また、主体性を持つと脳の成長によいことが、脳科学の分野でも明らかになっています。



## 1月の予定

（通級日と時間を忘れないように、予定を書き込んでおきましょう。変更の場合は再連絡します。）

月	火	水	木	金
1月8日 成人の日	1月9日 3学期始業式・弁当	1月10日	1月11日 学力調査	1月12日
1月15日	1月16日 学年集会	1月17日 すそのん寺子屋	1月18日	1月19日 専門委員会
1月22日	1月23日 生徒集会	1月24日	1月25日	1月26日 新入生説明会
1月29日	1月30日	1月31日 1・2年教育相談	2月1日 1・2年教育相談	2月2日 1・2年教育相談

### 高校入試関係

私立高校入試 2月6・7日 合格発表 16日、 公立高校入試 3月5・6日 合格発表 14日

## 特性のある子供たち 「面倒くさい」「やりたくない」の奥にあるものは？

発達障害・グレーゾーンの子供たちは、**物事を同時に進めたり考えたりすることが苦手**なことが多いです。

それは、ワーキングメモリが少ないので、**見通しを立てながら行動し、注意力を持って物事を進めていくのが難しい**ことが関係しています。子供はその状態を自覚していたり説明できたりするわけではないので、「面倒くさい」「やりたくない」と言います。でもその言葉の裏には、難しさ・辛さがあります。

小中学生が面倒くさがるNo.1、そして保護者の方からご相談が多いのも「宿題」です。「宿題をやる」と一言で言っても、取り掛かるまでにいくつかのハードルがあります。

- ① 予定帳や Chrome ブックで宿題を確認する
- ② 宿題をランドセルから出す
- ③ 筆箱を出す
- ④ ノートやドリルのページを開く
- ⑤ 宿題スタート！



宿題のために、あれもこれもしなきゃいけない！ そう考えると、苦手が多いものに気持ちに向かないことも理解できるような気がします。でも逆に、**やる気がおきるような対応と環境**を作ってあげれば、行動につながるかもしれません。そして、宿題で**「できる！」の自信**がつけば、学校の準備や習い事の練習なども少しずつやってみよう！ に変わっていきます。そのために、2つの工夫です。

### ◆準備で行動をサポート

宿題へのハードルを下げるためにおすすめなのは、学校から帰ったらすぐに宿題の**準備だけはしてしまう**ことです。まずは宿題に取り掛からなくてもいいので、一旦宿題に必要な準備を親も少し手伝って終えてしまいましょう！これをやるだけで、心の準備ができてきます。

あとは、おやつを食べながら、「いつ宿題やる？」と**本人にタイミングを決めさせて下さい**。

### ◆言葉でやる気をサポート …… 「どうして？」を「どうしたら？」に置き換えましょう！

×否定的な声かけ 「どうして宿題やらないの？」「どうしてゲームをいつまでもやっているの？」



○肯定的な声かけ 「今ゲームしているのね！どこまで進んだの？」

「どうしたら宿題やりたくなるかな？先におやつ食べる？」

「どうしたらもっとゲームをする時間が作れる？宿題を先にやってみようか？」



子供たちは宿題や勉強を「やらないといけない」と思っています。でも、親が心配しすぎて過剰に口出ししたり叱ったりすることで、さらに子供が勉強に向かわなくなるという悪循環になることがあります。

上記のような工夫をした上で、それでも取り組みがスムーズにいかない場合は、学校（担任や通級教室）へご相談ください。学習方法が本人に合っていなかったり、環境や特性が原因だったりする可能性があります。また、書字障害や読字障害などの学習障害（LD）のために困っているケースもあります。適切な支援を受けることで、自己肯定感が下がったり、勉強や学校が嫌になったりする二次障害を防いでいきたいものです。

（参考図書：発達障害『僕にはイラつく理由がある！』かなしろにゃんこ著）

……お便りの裏面は、裾野市内小中学校の通級担当者が、毎月輪番で作成しています……